

2011年度一橋大学政策フォーラム

福島原発事故への対応とこれからの原子力安全： ～日本と欧州の視点からみて～



HITOTSUBASHI
UNIVERSITY

主 催：E U S I 東京 (EU Studies Institute in Tokyo)、一橋大学大学院法学研究科
日 時：2011年12月22日 (木) 10時30分～17時 (10時受付開始)
会 場：如水会館 3F 松風の間

【プログラム】

言語：英語 / 日本語 (同時通訳あり)

10:00-10:30	受 付	
10:30-10:45	開会挨拶	山内 進 (一橋大学学長) ハンス・ディートマール・シュヴァイスグート (駐日EU大使)
10:45-11:15	基調講演	園田 康博 (内閣府大臣政務官) 「国民から信頼される新しい原子力安全規制に関する組織及び制度の改革」
11:20-12:20	第1部： 日本の視点から	報告 I：西脇 由弘 (東京大学工学系研究科原子力国際専攻客員教授) 「日本の原子力行政の課題：技術者の見地から」 報告 II：高橋 滋 (一橋大学大学院国際・公共政策大学院院長) 「日本の原子力行政の課題：法律家の見地から」
12:20-12:40	討 論	
12:40-13:30	休 憩	
13:30-15:00	第2部： 欧州の視点から	講演：パトリック・レイナー (AIDN/INLA事務局長) 「原子力安全を世界規模でどうガバナンスするか？：福島島の教訓」 報告：クリスチャン・レチュケ (弁護士・コンサルタント) 「福島事故に対するEUの反応」
15:00-15:20	討 論	
15:20-15:40	休 憩	
15:40-16:25	第3部： 国際社会の視点から	報告 I：久住 涼子 (フランス ENEN・一橋大学大学院法学研究科博士 後期課程) 「原子力安全条約について」 報告 II：秋山 信将 (一橋大学大学院法学研究科准教授) 「原子力安全強化をめぐる政治：制度的制約をこえて」
16:25-16:45	討 論	
16:45-16:55	閉会の辞	川崎 恭治 (一橋大学大学院法学研究科教授)
17:00-19:00	懇 親 会	

お申し込み ※ 定員 (100名) に達しましたので、お申し込みは締め切りました。

お問い合わせ E U S I 東京 (EU Studies Institute in Tokyo)
TEL : 042-580-9118 / E-mail: hit-u@eusi.jp